CONTENTS

JAPANESE SOCIETY OF SCIENTIFIC FISHERIES

Officers for 1962

All communications and publications should be addressed to Bureau of the Society, c/o Tokyo University of Fisheries, Shiba Kaigandori 6, Minato-ku, Tokyo.

THE BULLETIN, organ of the Society, is monthly published; the volume is open on January issue and closed on December issue of the year. Each volume has recently contained 1,000 pages in average of articles in Japanese (with English synopsis) or a congress language, with table of contents in earlier issue of the next volume. Back-numbers, as available, may be procured from the Secretary Board. Price will be furnished on application to General Secretary.

Due to Society for foreign members, $ 7.00 annually. Membership includes subscription to the Bulletin, and members will receive all back issues published in the current financial year. For individuals, it includes also the privilege of submitting articles for publication. Due should be prepaid to the Society, through General Secretary.

The affiliation to the members is acceptable for individuals on the consideration of the Board of Directors. Affiliation forms will be furnished on application. The membership is open for institutions.

The requests to exchange with scientific research organizations may be acceptable by the consideration of the Board of Directors.

JAPANESE SOCIETY OF SCIENTIFIC FISHERIES

c/o Tokyo University of Fisheries
Shiba Kaigandori 6, Minato-ku
Tokyo, Japan

THE SOCIETY has been closed to foreigners for a long period, but now, considering the circumstances, and expecting the advancement in the world of fisheries, international as well as domestic, they decide to open for and appreciate to add to our memberships the foreign scientists, all over the world.

The foreign membership includes both individuals and institutions; due to Society, $ 7.00 annually.

Further information may be read on the back

....

General Secretary
Japanese Society of Scientific Fisheries
c/o Tokyo University of Fisheries
Shiba Kaigandori 6, Minato-ku
Tokyo, Japan.

I/We wish to apply for foreign membership of the Society,

☐ as individual member. Please send me an affiliation form.

☐ as institution. (a) Enclosed our check for $ .... , (b) Please send us invoice(s, in .... copies), to the membership for 19 .... to ....

NAME (in print, or typewrite)

....

ADDRESS

....

....

....

日本水産学会投稿規定

1. 報文の投稿者は本会個人に限る。但し会員外の共同研究者を含むことは差支えない。
2. 報文は投稿者の原著で他の刊行物に未発表のものに限る。
3. 報文は総て本会に送付し，本会に到着した日を以つて受付月日とし，受付けた原稿は総て編集長の指定する2名の編集理事または編集幹事が回覧し，掲載可と認めたものはそのまま受理する。この場合の受理月日は受付月日とする。編集理事が，そのまま掲載することに疑義をいただいた場合は編集長にその旨報告する。この場合編集長は編集会議で審議し，受理し得ないと認めた場合はその理由を付し，原著者に返却し，訂正を求める。この場合の受理月日は，学会が訂正原稿に受理した月日とする。受理した論文は，その受理月日の順に掲載する。但し，その報文または報文抄録が印刷費著者負担の場合は，会誌を増頁して掲載する。抄録を希望する場合は本論文をそえて提出すること。
4. 原稿一篇の学会負担印刷費は和文 8,700 円，英文 8,900 円とし，これを超過した場合は著者が負担する。

   参考：上記学会負担額はおよそ刷上り4頁（表題，200 語の英文抄録を除き，図表の占める紙面を含め約 7000 字相当）
5. 会員が会費または著者として負担すべき印刷費の支払いを怠るときは，支払いのあるまでその会員の報文の受理または掲載を見合わせることがある。
6. 邦文報告には原則として200語以内の英文抄録を添える。
7. 図表には英文の説明をつける。邦文を併用してもよい。但し，図表のトレースを依頼する場合は，著者がその実費を負担すること。(簡単な図で一葉200円程度)。
8. 投稿の細目については別に定める注意書に従う。

投稿に関する注意

1. 原稿を投稿するときは，本会所定の投稿カード（請求により配付する）に必要事項を記入し，これを原稿に添えて本会に提出する。
2. 初校は著者が校正する。初校の期限は学会より発送してから返着まで 10 日間とする。なお原則として文章または図表の変更や追加は禁ずる。著しく改稿した場合は，改版分の経費を著者負担とする。
3. 英文抄録，図及び表の表題，説明等の英訳を希望される向きはその原案を添えて投稿されたい。但し実費（1語3円）を申し受ける。
4. 別刷りの料金(X円)は次の式によつて算出される額とする。$X=1.3(1+P)(N-50)$ 円，ただしP：頁数，N：別刷数 50（部を単位とする）従つて 50 部までは頁数に拘わらず無料である。特に表紙をつけることを希望される場合は，著者負担によつてこれをつける（50 部当り 450 円)。
5. 投稿後掲載までの間に著者の連絡先が変つたときには必らず通知されたい。

原稿の書き方

原稿は会誌体裁の統一，誤まりの防止，編集印刷の便宜上次の諸規定を守られたい。既出報文との調和その他のために例外を望まれる著者はその都度明記されたい。

1. **邦文原稿**は本会所定の原稿用紙にペンで横書きにし，記述は簡単明瞭にし，新かなづかいを用いて難かしい漢字はさける。英文抄録は本文とは別葉にする。
2. **欧文原稿**厚手の上質紙に2段送りのタイプで打つ。欧文本文以外の欧文個所はペン書きでもよいが必らず活字体を用いる。

3. **表題**　主題・副題は別行に書き各々ピリオド (.) をつけない。第○報の場合はローマ数字（I，II）にして (——) でつなぎ数字の後に (.) をつける。

4. **著者名**　邦文では連名の時は（・）で連ねる。ローマ字では名の頭を Capital 後は Small, 姓の頭を Capital, 後は Small Capital にする。連名の時は (,) で連ね最後の名の前を (and) で連ねる。(&) は用いない。末尾に (.) はつけない。

5. **所属**　表頁の脚註に入れる。報文の本文が日本文の場合は所属名のつぎに（　）で囲んでその英名を入れる。欧文の場合は先に所属の英文を入れ，つぎに（ ）で囲んで日本語で著者名と所属名を記入する。所属名は特に英名がない場合はローマ字で書き，郵便が届く程度に所在地名を入れる。

6. **英文抄録**　邦文原稿に添附する英文抄録には，表題，著者名 (full name)，所属 (address を含む) を記載し，研究目的，方法，成績（本文中の図表を引用できる個所は括弧を附し，その番号を記載すること)，考察乃至結論を，できるだけ簡潔な英文で 200 語程度にまとめること。

7. **図表**　表題，説明，内容とも英文で書く。必要ならば邦文併用もよい。番号は (Fig. 1., Table 1.) とする。番号，表題，説明は図ではその下に，表ではその上に入れる。表の細かい説明は下でもよい。邦文併用の時は邦文の番号（第1図，第1表）は省く。図表は必らず本文と別葉にし，本文中に挿入個所を赤で指定する。また本文中に引用する時は (Fig. 1, Table 1) を用いる。

8. **附図**　附図は1頁大の図版で (Plate) とし，なるべく篇末に入れる。原図が写真であつても本文中に組込む時は Fig. にする。附図の番号はローマ数字（I，II）を用いる。

9. **字体の指定**は右の如く赤で入れる。



Italic　**Gothic**　CAPITAL　CAP. & SMALL CAP　うわつき（かたつき）　したつき

10. **生物名**　邦文ではカタカナの和名の次に，学名を *Italic*（命名者名は Roman で頭文字を Capital, 後を Small Cap.) で入れ，英文では俗名の次に学名を邦文と同様に入れる。[その間は (,) で切る] これを原則とするが論文により必要がなければ一部または全部の学名，俗名を略してもよい。学名は（ ）で囲まないこと。

11. **化学名**　邦文中の外来語の化学名は一般的なものはカタカナを用い，英字を用いねばならないときは Small で入れる。

12. **人名**　まぎれない時は姓のみを記し名と敬称とを省いてもよい。欧名でも姓のみで頭文字は Capital, 後は Small Capital で書く。

13. **単位及び記号**　単位を表わす文字は英文中では (C., cc., m*l*., kg., m.) の如く (.) をつける。但し (Ω, μ, γ, N, M, pH, 及び方位の N, S, E, W) には (.) をつけない。邦文中ではこれらの (.) はすべて省く。量を代表する記号は（長さ l, 高さ h）の如く *Italic* にする。

14. **邦文本文中の外国語**（横文字の場合）は人名，地名，ドイツ語の名詞等を除き Small で入れる。同一邦文中で同一物名の和洋語の混用はさける。

15. **文献**　本文中の関連個所にうわつきで一貫番号をつけ一括して末尾に集める。番号はアラビア数字 (1, 2,3) を用い片カッコ (1), パーレン) で囲み各行の末尾にピリオド (.) をつける。著者名は姓と名とを書き著者名の後はコロン（:）で切る。雑誌名の略し方は慣用法に従う。日本水産学会誌のことは本誌とする。英文雑誌名は *Italic* で書く。雑誌の巻番号は **Gothic** にする。西歴年号は必らず入れる。文献の見出しは（文献，References）とする。同一著者名，同一雑誌名を連記する時は (——) で略してもよい。

文献の書き方について著者の都合で上の指定によらない時は特にそのことを付記しておくこと。

16. **脚註**　脚註は数字でない記号 (*, **) を用い関係頁の下段に入れ巻末に集めない。